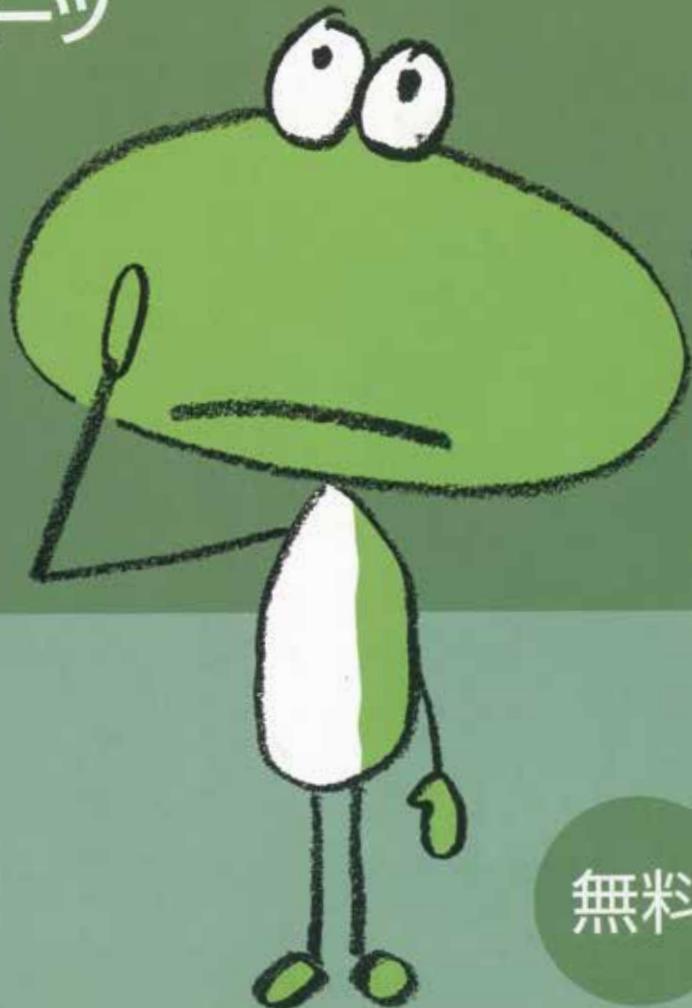


Sport
Godzilla®

スポーツ ゴジラ®

第20号
戦争とスポーツ



「スポーツゴジラ」はスポーツ振興くじ
助成金を受けて発行しています

無料



スポーツゴジラ®

[第20号]

「ゴジラ」は東宝株式会社の登録商標です。
『スポーツゴジラ』は、日本スポーツ学会が
商標使用の許諾を受け、スポーツネット
ワークジャパンが発行しています。

2 第20号を発刊するにあたり

長田 濂左

■特集■

戦争とスポーツ

- | | | |
|----|---------------------------|--------|
| 4 | サッカーと民族融和——オシムの信念 | 木村 元彦 |
| 16 | 今、語る被爆体験——張本勲 | 西本 祥子 |
| 24 | 戦争とスポーツ年表 | 阿部 雄輔 |
| 27 | 心に残る言葉 | 大場 明子 |
| 28 | 奪われた剛腕
——沢村栄治の27年 | 川本 凜太郎 |
| 40 | なぜ語るのか——山田雅人 | 長田 濂左 |
| 45 | 米国に振りあげた拳
——ムハマド・アリの闘争 | 川本 凜太郎 |
| 52 | スポーツネットワークジャパンとは | |

【表紙イラスト】南 伸坊

スポーツネットワークジャパンHP <http://sportsnetworkjapan.com/>

『スポーツゴジラ』は、種目を問わずスポーツそのものの魅力や
価値を語るスポーツ総合誌（フリーペーパー）です。

第20号を発刊するにあたり

編集長 長田 楠左



外から突きつけられる問題も厳しさを増してきています。

この秋一番の明るい話題は、山中伸弥京都大学教授のノーベル医学生理学賞の受賞でした。その山中氏のライフィストリーを表した写真に、スポーツ関係者は大喜びしました。

中学時代は柔道着、高校時代は海水パンツ、大学ではヘッドギアをつけたラガーシャツ姿。

研究で疲れると走りにゆく日常は今も続いているようです。

我が国のスポーツの地位は決して高いものではありません。政治、経済、医科学研究などより、一段下に見られました。

ですが山中教授の日常の写真が、スポーツはそれらを繋ぐものだと示してくれました。

一方で、尖閣諸島、竹島、北方領土問題などで国

今回の特集では時代を遡り、戦争の時代に日本はスポーツとどのようにかかわってきたのか!? あるいは海外のスポーツ人は、どのように内戦や戦争に揺さぶられてきたのか!? を扱いました。

東京・水道橋にある東京ドームを訪れるたびに第二次世界大戦で戦火に散ったプロ野球戦没者の「鎮魂の碑」をみつめるようになりました。今でいえばダルビッシュや松井秀喜、18歳の大谷翔平らのようなプロ野球を代表する選手、若いホープたちの名前が刻み込まれています。

その69人の名前を見るたびに、もう一度とあの時代に戻ってはならないと思い、スポーツを存分に楽しめる平和を囁みしめています。

『スポーツゴジラ』20号が、スポーツを愛する方々の参考になることを祈ります。

第20号を発刊するにあたり

『スポーツゴジラ』20号
ご協賛およびご協力企業・団体

Panasonic



立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



JX日鉱日石エネルギー



(第)第一交通産業グループ DAI-CHI 文藝春秋

WOWOW

meiji

上月財団



株式会社 トンボ

JAPAN SPORT
COUNCIL

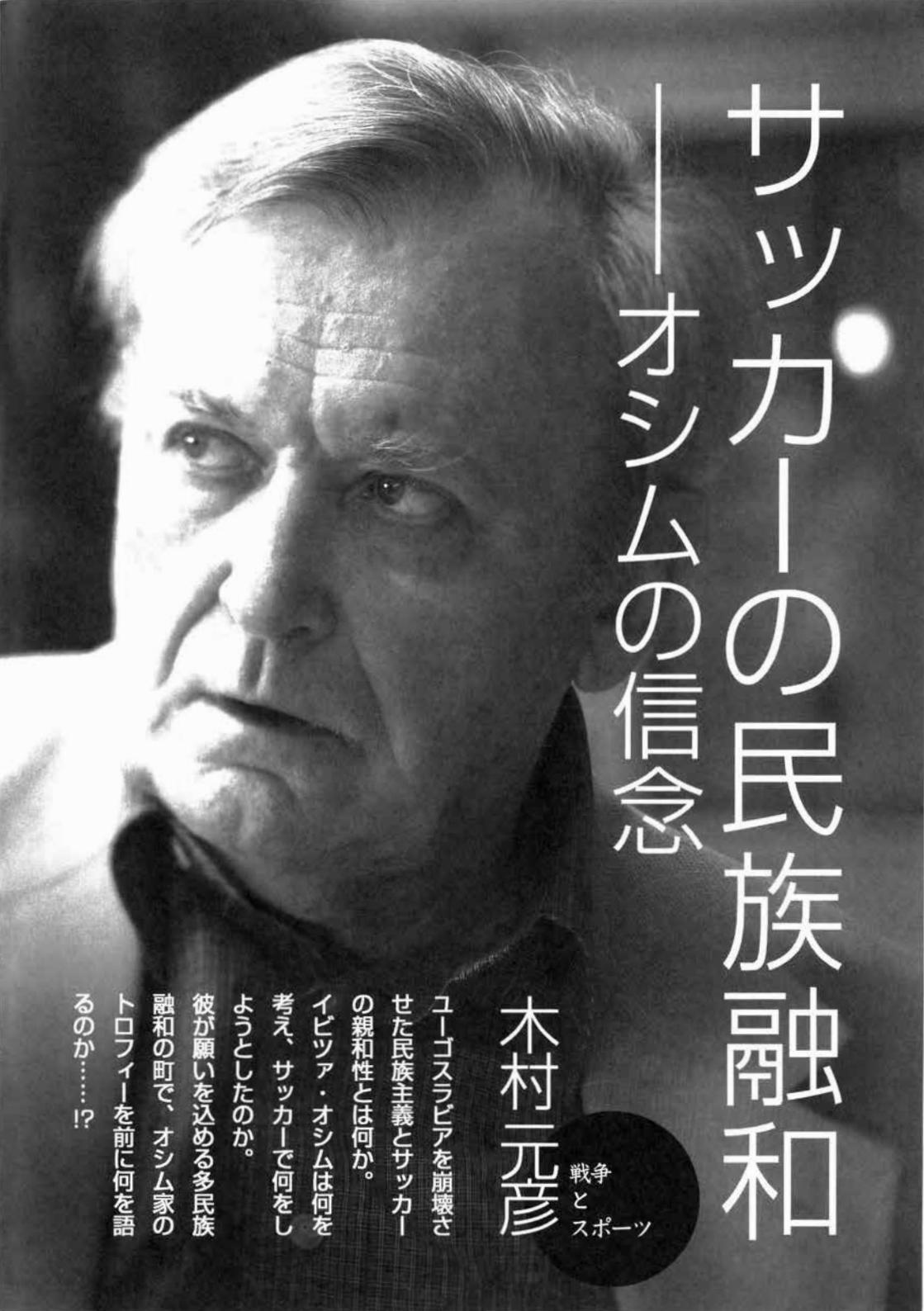


日本テレネット株式会社

株式会社東美物流

日本ハンドボールリーグ機構

(順不同)



サッカーの民族融和 オシムの信念

木村 元彦

戦争
と
スポーツ

コーゴスラビアを崩壊させた民族主義とサッカーの親和性とは何か。

イビツア・オシムは何を考え、サッカーで何をしようとしたのか。

彼が願いを込める多民族融和の町で、オシム家のトロフィーを前に何を語るのか……!?

軍隊式スポーツの矛盾

さすがに最近は聞かれなくなつたが、一時、看過し難い言説がスポーツ界で横行したことがある。すなわち、アスリートのモチベーションと戦時下における精神主義を肯定的に結びつけて、あたかも戦争体験がスポーツにおいてきわめて有効に働くというそれである。私の記憶によれば、実際に戦争や軍隊のメカニズムをチーム強化に取り入れていると公に発言したのは1979年、当時ヤクルトスワローズの監督であつた広岡達朗であつた。この前年、ヤクルトを日本一に導いた広岡はその成功体験を『私の海軍式野球』という書物にして著している。文中に、

海軍軍人であつた父親の影響を受け、「私は『江田島（海軍兵学校）式野球』をやつた」という章を設けている。要旨はこうである。陸地戦とは異なり、軍艦での戦いは船が沈めば全員が死んでしまう。たつた一人でも乗組員が勝手なことをすると全艦に影

響する運命共同体同士の戦いであるということから、船を沈ませないためにどんな小さな妥協も許さない。野球選手も同様だと説いたものである。しかし、選手全員が一切の妥協を排してチームのために闘うという姿勢は何も海軍に倣わなくてもその競技の枠組みの中でコーチングすれば良いだけの話である。実際、広岡の江田島式はやがて軍隊の規律管理ようしく選手の食事の制限まで行う管理野球に繋がつて行くが、結局それは破綻する。広岡はヤクルト、西武で解任され、GMとなつたロッテでも選手から猛反発を食らつて結果を残せていない。今ではどこの球団でも広岡が提唱した玄米メニューなど食べさせてはいらない。

広岡以降も野球の某有名監督が、自チームで活躍する韓国人選手を称賛する意味で「38度線に分かれて戦争をしている祖国を持ち、徴兵を経験している奴はやはり根性が違う」という発言をしたり、サッカーでも「日本の選手は平和ボケの中で甘やかされ

ている。それに対してもクロアチアの選手は親が内戦で殺されたりしている。強くならないはずがない」と高名な指導者が、強化のポイントを戦争との因果関係に求めたりしている。

こういう発言に出会うたびに暗澹たる気持ちになる。韓国人選手は徴兵の経験があるから強いのではなく、むしろ五輪やW杯での活躍を徴兵免除の条件に掲げられているからこそ大舞台でのモチベーションが違うのだ。クロアチアの強さの理由を内戦の悲劇につなげるに至つては、彼の国のアスリートに対して失礼きわまりない。ザグレブのサッカー協会のスタッフがこの言説を人づてに聞いて呆れていたものである。「内戦があることがサッカーが強くなる要因というのなら、喜んで弱くなりたい。立場を代わりたいね」

日本でもかつて鬼の大松（＝東京五輪金メダル女子バレー監督）と呼ばれた監督がいて、そのスペルタ練習が話題を集めたことがあつた。しかし、第二

次大戦中、兵隊として無謀きわまるインペール作戦に従軍して文字通り死地を彷徨つた大松は、練習に厳しくはあつても終生選手に慕われるほどに情に厚く、決してバレーを戦争に喩えることはしなかつたという。本当の戦争を体験した人は決して安易に戦争を持ち出さない。愛するスポーツと選手ができるだけ戦争から遠いところに置こうとするものである。

民族主義とサッカー

私がイビツア・オシムという人物を描こうと思つた理由はそこにあつた。脳梗塞によつて志半ばで日本代表監督の座を辞してからすでに5年が経過する。「スポーツゴジラ」の若い読者のために彼がどのような半生を送り、戦争に抗つたのかを駆け足で知らせたい。

97年から旧ユーゴスラビアのサッカーシーンの取材を始めた私はユーゴを崩壊させた民族主義とサッカーの親和性に気づいていた。サッカーがナショナ



旧ユーゲスラビア

6つの共和国（セルビア、クロアチア、スロベニア、ボスニア、マケドニア、モンテネグロ）、5つの民族（セルビア人、クロアチア人、スロベニア人、マケドニア人、モンテネグロ人）、4つの言語（セルビア語、クロアチア語、スロベニア語、マケドニア語）、アルバニア語）、3つの宗教（カトリック、オーソドックス、イスラム）、2つの文字（ラテン、キリル）、1つの国家（ユ

リズムの発揚に利用された軌跡を至るところで見たのである。

まず背景を記そう。多民族が融和していたこの国を表すあまりに有名な数え唄として「7つの国境、6つの共和国（セルビア、クロアチア、スロベニア、ボスニア、マケドニア、モンテネグロ）、5つの民族（セルビア人、クロアチア人、スロベニア人、マケドニア人、モンテネグロ人）、4つの言語（セルビア語、クロアチア語、スロベニア語、マケドニア語）、アルバニア語）、3つの宗教（カトリック、オーソドックス、イスラム）、2つの文字（ラテン、キリル）、1つの国家（ユーゴスラビア）」というのがある。かつてユーゴはチト一大統領の強烈な指導力の下で独自の社会主義システムを構築し、東ヨーロッパでは多民族、多文化が共存する、最も豊かで自由な国と言われていた。しかし、チトーの死後、タガが外れたように各共和国の政治家たちが民族主義をあおり出して内戦が始まった。「自分たちはユーゴスラビア人（南のスラブ人の意味）というような曖昧なものではない。自共和国の自民族を名乗りたい」というアイデンティティへの希求が、北部と南部の間で肥大していた国内の経済格差に対する不満に結びついて分離独立を叫び出したのである。チエコとスロバキアのように平和裏に分離ができれば良かったのだが、そんならず、排外主義を呼び、他民族を排除、殺害、拉致する「民族浄化」に繋がつて行つた。

各共和国のホームとされるサッカーフィールドは地図のサポーターとも結びつき、ナショナリズムのアジテーションをする格好の場所となつた。1990年5月

13日にクロアチアのザグレブのマクシミルスタジアムで行われたディナモ・ザグレブ対レッドスター・ペオグランドの試合はホイッスルの前からサポータ一同士が衝突し、あたかもクロアチア人対セルビア人の代理戦争の様相を呈した。この暴動でボバンはセルビア人警官を暴行した罪を咎められW杯出場停止のペナルティを受けた。これは直前に行われていた選挙で^{*5} フラニョ・トウジマン（後のクロアチア初代大統領）率いる極右政党のHDZ（クロアチア民主党）が大勝した流れを受けたものであった。この暴動の主役であり、過激なことで知られるディナモ・ザグレブのサポーター（ブルーブーイズ）のリーダー、ヴァイスはチート時代のことをこう総括していた。「国家が定めたユゴ人という不確かなものから、俺たちはクロアチア人になるためにディナモ・ザグレブを応援していた。ディナモを応援することで初めてクロアチア人になり得たのだ。その意味でディナモは俺たちのア

イデンティティーそのものと言えた。バッドブルーポーイズはその支援部隊だ。サッカー場は戦場だ」トウジマンは盛んに「 BBB は HDZ 」と^{*6} プロパガンダしていた。

ヴァイスの言葉はただのはつたりではなかつた。クロアチアで紛争が勃発し、91年8月25日からセルビア人勢力によるスラボニア東部の町ブコバルへの攻撃が始まると、ヴァイスは自ら志願兵となり、バッドブルーポーイズで構成した民兵部隊を率いて戦地に就いた。サッカーのサポーター集団がそのまま一個小隊にスライドして銃を持つて戦つたのである。建物の98パーセントが破壊された大激戦地のブコバルで泥水を啜つたヴァイスは「あそこで俺たちが立ち上がらなければ、セルビア軍はザグレブまで攻めて來たと思う」と、今でも語る。

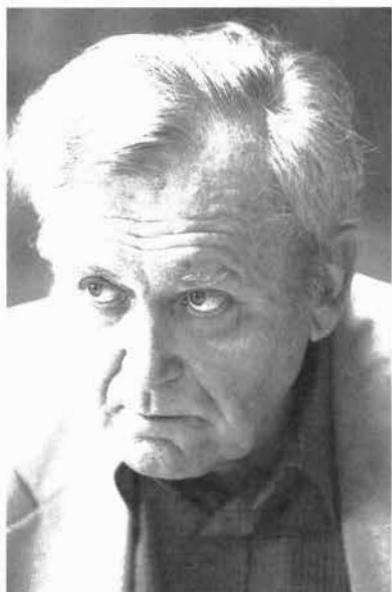
サポーターがそのアイデンティティーを軍隊にシンクロさせた世界でも稀有な例であるが、それだけサッカーと戦争が強く結びついていたという事例が

ここからうかがえる。

試合のたびに民族間の敵意がむき出しになり、相手の選手やサポーターは親の仇のように憎悪の対象とされていた。紛争が終結後もナショナリズムの温床としてのサッカースタジアムはそのままで、私が取材を始めた頃も旧ユーゴのチーム同士が試合をする場合はアウエイのサポーターを入れない、あるいは制限隔離するという措置までとられていた。

民族融和のカリスマ

しかし、オシムはそれほどまでに厳しいサッカーワールドにおいても民族融和の象徴として伝説のように語り継がれていた。これは驚異であつた。北はスロベニアから南はコソボやマケドニアまで、それぞれの共和国のサッカー協会で「旧ユーゴスラビアで最高の選手は?」との質問を投げかけると、ほとんどの関係者が自民族の選手の名前を挙げた。スロベニア協会ならロス五輪銅メダルの原動力カタネツチ、ク



ロアチア協会ならマクシミルの勇者ボバン、セルビア協会なら妖精ストイコビッチという具合である。当然だろう。彼らの中ではもはやユーゴスラビアは遠い過去の話である。自国の歴史とは切り離して考へていいからだ。しかし、最高の監督は? の質問には異口同音にイビツァ・オシムの名前を挙げるのであった。そしてオシムがいかに寛容で誠実な人物であったかをまるで計ったかのように付け加えるのだ。国父チトー終身大統領ですら、批判されている

渦中で、全民族から慕われた人物、それがイビツア・オシムという人物だつた。

私はオシムがユーゴスラビア最後の代表監督であつたこと、そしてシュトルム・グラーツというオーストリアの小さなクラブをみるとうちに強豪に仕立て上げて^{*9}チャンピオンズリーグに3年続けて出場させたことは知つていたが、ユーゴ全土でサッカーの、そして民族融和のカリスマとされていることを取材を通じてあらためて知つたのである。

彼はサッカーの前には全民族はすべて平等であるとし、それまで悪しき慣例となつていていた試合を行なう共和国の選手を中心に選ぶといった政治的な配慮を排していた。

「それが代表チームのベストなメンバードと思うのならば私はコソボのアルバニア人（＝旧ユーゴで主要民族から最も遠い地位とされた）で11人を選ぶ」

とはこの頃の言葉である。時勢は風雲急を告げ、民族主義を掲げる政治家は代表チームを政治利用としてこようともこれに屈しなかつた。政治家だけではない。ジエリコ・ラジュナトビッチ（通称アルカン）という国際指名手配を受けた暗黒街の住民がいた。アルカンはレッドスターのサポーターのリーダーで、ヴァイス同様にフーリガンを組織して虎部隊という民兵部隊を操りボスニアで略奪の限りを尽くしていた。オシムは誰もが恐れたこのアルカンからの選手起用の要求も毅然と突っぱねた。

祖国を繋ぎとめるために

オシムが率いた代表は1990年のイタリアW杯に出場を決めた後、大会の直前、6月3日にオランダとのテストマッチを行うのだが、場所が先述したマクシミル暴動と同じスタジアムであつた。事件から20日しか経っていないことからもいかにひどい修

羅場であつたかが想像できよう。クロアチア人たちは全員で相手のオランダを応援し、ユーゴ代表を罵倒したのである。国歌の演奏になるとすさまじいブーイングでこれをかき消し、さらには各民族の権益を代表するかのような新聞記者たちが、身震肩な言説を現場の最高責任者であるオシムに向けて発した。頑として信念を貫きながらも苦悩は大きかつた。私が解説を施した「引き裂かれたイレブン」というDVDのインタビューでオシムは当時のことをこのように回顧している。「今思えば自分はまるで風車に立ち向かうドン・キホーテであつたかもしれないが、私はバラバラになりかけた祖国をサッカーで繋ぎとめられないかと考えていた」

旧ユーゴスラビア最後の監督となつた彼は多民族の選手をまとめ上げるためにその崩壊の過程を全身で受け止めなくてはならなかつたのである。

92年の欧州選手権では、予選の快進撃とまるで重なるように祖国崩壊は始まつた。それは世界のスポーツ^{*10}

一つ史上、稀に見る残酷な現象だつた。4年前から世代交代を図り、鍛え上げた多民族集団はまさに黄金時代を迎えたのである。90年代、世界のサッカーはユーゴの時代が来るとさえ言っていたが、皮肉なことにそれと並行して民族間の紛争が勃発し、国が壊れていった。

拙著『オシムの言葉』に記した表を簡略化してここに転記したい。欧州選手権予選の試合結果と戦っている最中に起こつた内戦を併記するだけでも、オシムがいかなる状況下でチームをまとめていたかが理解できよう。

90年9月12日、対北アイルランド2-0勝利。得点者パンチエフ（マケドニア人）、プロシネチキ（クロアチア人）。

10月3日、スロベニアとクロアチアの幹部会、共同で『国家連合案』を発表。

11月14日、対デンマーク2-0勝利。ヤルニ（クロアチア人）、バジャレビッチ（ボスニア人）。

12月23日。セルビア総選挙でスロボダン・ミロシエビッヂが大統領に就任。^{*12}

同日、スロベニアで国民投票。有権者総数の88パーセントがユーゴからの独立に賛成。

91年5月2日、東スラボニアのボロボ・セロで、クロアチア特別警察とセルビア人住民との武装衝突。銃撃戦。

6月25日、クロアチア、スロベニア両国独立宣言。11月13日、対オーストリア2-0勝利。ルキッチ（クロアチア人）、サビチエビッヂ（モンテネグロ人）。11月17日、クロアチアの拠点である東スラボニアのブコバルが陥落。（この戦いにバッドブルーボイズのヴァイスが参戦したことは先に述べた）

民族の異なるチームメイト同士が、内戦で殺し合ひをしている現実を意識しないはずがない。メディアは盛んに煽り立て、自民族の優位性だけを書いたりする。直接戦争に関わっていない者は新聞などを通して物事を知るしかないから、選手はよけいに混

代表を辞退する選手たち

91年の6月にクロアチアとスロベニアが独立宣言をすると、両共和国の選手は代表でのプレーを辞退せざるを得なくなつた。サッカー選手として欧州選手権での栄光を掴みたいと考えていてるプレーヤーもいたが、周囲の空気がそれを許さなかつたのである。「自分を代表に召集しないで下さい」とオシムの下に電話が入るのだ。クロアチアやスロベニアに住む者にとって、ユーゴ代表へノミネートされたことが知られると、その去就が大きくクローズアップされる。同胞を裏切つて代表に行くようなことはしまいな？ という圧力が選手にはふりかかる。オシムの下でサッカーはしたい。しかし、自分だけではなく、家族や親戚にも影響を及ぼす危険すらある。それならばその苦しい決断を迫られずに済む立場に身を置きたい。それが選手の正直な気持ちだつた。

内戦の主戦場と化した

オシムはそんな中でチームをまとめ上げ予選4組トップの成績で欧洲選手権ユーロ92の出場を決めた。しかし、そこにクロアチアとスロベニアの選手は存在しなかつた。この後ボスニアとマケドニアの選手も代表参加を辞退し、櫛の歯が抜けるように選手たちはいなくなつていて。そして最後にわが身に降りかかつた悲劇がサラエボ包囲戦であつた。92年4月3日、オシムは故郷サラエボに妻と娘を残し、出張^{*13}でベオグラードに来ていた。この間にセルビア系勢力はボスニア政府にサラエボの分割を迫り、拒否されると密かに盆地の底にあるこの街を戦車260台、迫撃砲120砲、そして無数の狙撃銃で周囲を取り囲んでいたのである。攻撃が始まると、空港は真っ先に閉鎖され、四方を山に囲まれた盆地サラエボは全ての外世界から分断させられ、ただの標的にされた。このサラエボ包囲戦はこれより1395日に渡

つて続けられる。オシムが愛して止まなかつた多民族融和の町。そこが、一転して爆弾や銃弾が日常として飛び交う血塗られた内戦の主戦場とされてしまつた。3、4日の出張からすぐに帰るはずが、妻と子の安否確認もままならぬ中、およそ2年も生き別れたままになるのである。

オシム家のトロフィー

2年ほど前、サラエボのオシムの実家を訪ねた際、妻のアシマから「これが我が家のトロフィーですよ」と見せられたものがある。覗き込んで思わず息を飲んだ。部屋に撃ち込まれた弾丸が大きなクッキーの空き缶いっぱいに集められていたのである。30、40発はあつただろうか。隣室は床が抜けた跡が残つてゐた。スナイパーたちによつて死はすぐ近くにあつたのだ。「朝、起きてもベランダには立てなかつた。いつも標的にされていたから」とアシマは淡淡と語つた。水道も電話も郵便も遮断されていた。水を汲

むためには5キロ離れた場所まで走った。

いつ狙撃され

て絶命しても

恥ずかしく無

いように外出

時はいつも薄

化粧をしてい

たという。隔

絶されたサラエボで最愛の家族がいつ殺されるか分からぬ状況で、オシムはプロとして結果を出し続けた。尋常な精神力ではない。彼は本当の戦争の醜さを知っている。

いくつかの「オシムの言葉」を聞いた中で私が一

番好きなのは、何度目かのインタビューで行つた次のやりとりの一節である。

——貴方は隣人同士が殺し合いをさせられたあの酷



クッキー缶に集められた弾丸

い内戦を、艱難辛苦乗り越えた。貴方のサッカー監督としての英断力、胆力はそこで鍛えられたのではありませんですか。

「あつたかもしれないが、言葉にするとき、それは無かつたというようにしている。そこから学んだといふと、そういう戦争が必要なものになつてしまふ」

【写真／山本雷太】

*1 クロアチア共和国の首都。人口79万2875人(2011年現在)。同国最大の都市で文化、学術、経済の中心地でもある。

*2 1944年(昭和19年)、日本軍が北ビルマ(現ミャンマー)からインド北東部の都市インパールの攻略を目指した作戦。食料や弾薬などの補給を軽視したために多くの犠牲者を出した。

*3 扇動。

*4 ズヴォニミル・ポパン。1968年10月8日、クロアチア・イモツキ出身。デイナモ・ザグレブ(クロアチア)やACミラン(イタリア)の中心選手として長く活躍。ユゴスラビア代表、クロアチア代表としてもプレーした。

* 5 1922年5月14日—99年12月10日。クロアチア・ザゴラ出身。90年7月から99年12月までクロアチア初代の大統領を務める。クロアチア独立運動の指導者として活躍し、「クロアチア独立の父」とも言われる。

* 6 政治、思想の宣伝。

* 7 スレチコ・カタネッチ。1963年7月16日、スロベニア・リュブリヤナ出身。デイナモ・ザグレブ（クロアチア）、シュツットガルト（ドイツ）、サンプドリア（イタリア）などでプレー。選手としてはもちろん、指導者としての評価も高く09年から11年までUAE代表の監督を務めた。

* 8 ドラガン・ストイコビッチ。1965年3月3日、セルビア・ニシュ出身。レッドスター・ベオグラード（セルビア）、マルセイユ（フランス）、名古屋グランパス（日本）などでプレー。ピクシー（妖精）の愛称で知られる。08年より名古屋グランパスの監督として指揮を執る。

* 9 正式名称、UEFAチャンピオンズリーグ（UEFA Champions League）。UEFA（欧州サッカー連盟）が主催するクラブチームを対象にした大会。加盟国地域におけるリーグ戦の上位クラブが参加する。

* 10 正式名称、UEFA欧洲選手権（UEFA European Football Championship）。UEFA主催のナショナルチームを対象にした大会。4年に一度開催される。

* 11 これまでのように複数の国が1つの主権下で結合するのではなく、それぞれの国家を尊重した連合体を結成す

べきとの案。

* 12 1941年8月20日—2006年3月11日。セルビア・ボジャレヴァツ出身。第7代セルビア社会主義共和国幹部会議長（89年5月—90年9月）、初代セルビア共和国大統領（90年9月—97年7月）、第3代ユーゴスラビア大統領（97年7月—00年10月）等を歴任。民族浄化などの独裁的な指導で知られる。

* 13 ボスニア・ヘルツェゴビナの首都。人口31万1161人（2011年現在）。

* 14 セルビア共和国の首都。人口175万6534人（2006年現在）。

イビツア・オシム 1941年5月6日、ボスニア・サラエボ出身。地元サラエボのジエリエズニチャルで頭角を現し、64～69年、ユーロスマリーナ（クロアチア）代表FW。64年東京五輪の日本戦で2得点。ストラスブール（フランス）などでプレー後、古巣ジエリエズニチャルの指導者に。86～92年、ユーロ代表監督。グラーツ（オーストリア）を3大会連続でCL出場に導いた後、02年、ジェフユナイテッド市原（03年から市原・千葉）監督に就任し、05年、クラブ初タイトルとなるヤマザキナビスコ杯制覇。06年、日本代表監督に就任するが、07年11月、脳梗塞で倒れ辞任。

今、語る被爆体験

張本勲



スポニ子提供

張本勲氏は、長い間で自身の被爆体験を語ることはなかった。その彼が、今年、出身地・広島のマツダスタジアムで初めての始球式を行った。テレビで20歳前後の若者が「戦争なんか自分たちとは関係ない」「原爆がどこに落ちたかなんて知らない」と放言するのを聞いて、被爆体験を語るのは自分達しかいないと、気づかされたという。

張本勲氏は、長い間で自身の被爆体験を語ることはなかった。その彼が、今年、出身地・広島のマツダスタジアムで初めての始球式を行った。

戦争
と
スポーツ

毎週日曜日の朝、TBS「サンデーモーニング」のスポーツコーナーで「喝だ、かーつ！」と元気な声を響かせている張本勲さん。現役時代は「安打製造機」の異名を持ち、41歳で引退するまで日本プロ野球記録の通算3085本もヒットを打った。

その張本さんが広島出身であることを知っている人はどのくらいいるだろう？　張本さんは今年初めて故郷広島の地で始球式を行なつた。原爆慰靈の日である8月6日の前夜に、広島・マツダスタジアムで行なわれた阪神対広島の試合。始球式で張本さんがボールを投げた時、打席に立つていたのは今季限りでの引退を表明していた金本知憲選手だった。

初の始球式

——プロ野球を引退して31年経ちました。なぜ、今、出身地である広島で初めて始球式をしたのでしょうか？

張本　数年前、テレビで、原爆がどこに落ちたかを

知らない若者がいることを知りました。1945年8月6日午前8時15分、広島に原爆が落ちたということを知らない若者が大勢いる。私は広島で生まれ育ち、広島人として誇りを持つています。それが、「私ら関係ない。遠い昔のことだから」と言つてゐるのを聞いて、これは大変な国になつたと感じました。戦争で亡くなつた人達は犠牲者じやないからね。私達の身代わりですよ。一つ間違つたら私達が遭つていたかもしれないのです。忘れてはいけない。私ももう70歳を超えました。これまで被爆のことをなかなか言えなかつたが、依頼が来たらどんどんメッセージを出していこう、と考え始めました。

——原爆が投下された時はどこにいましたか？

張本　5歳だった私は、近所の友達と外で遊ぼうと、ちようど家のドアを開けたところでした。ドアを開けた瞬間、ピカつと光つたかと思うとドーンという音とともに強い衝撃を受け、氣を失いました。

明暗を分けた山

——ご家族はどうされていましたか？

張本　当時、広島の家には5人で住んでいました。母と15歳の兄、11歳と8歳の2人の姉、そして私は父は韓国にいて戦況の悪化から広島に戻つてくることができました。家は、比治山のふもとのバラツク建ての長屋です。ドーンという衝撃で、長屋は一瞬にしてなぎ倒されました。爆心地からわずか2キロです。後に、爆心地から500m以内にいた人はほぼ即死、一瞬にして約10万人の人が亡くなつた、とわかりました。その日、兄は仕事で朝から出かけており、一番上の姉は小学校の勤労奉仕で比治山のてっぺんで作業をしていました。だから、そのとき家には、母と、すぐ上の姉と自分の3人だけがいました。

——被爆した時、周りはどのような様子でしたか？

張本　氣を失っていたのはほんの一瞬だつたようですが、気がついたら母が私とすぐ上の姉を抱きかかえるように覆いかぶさっていました。そのお陰で自分は無傷でしたが、母の身体には無数のガラスの破片が刺さつて血まみれになつていました。母は「ぶどう烟へ逃げろ！」すぐ上の姉と私に叫びました。母は「兄と一番上の姉が帰つてくるのを待つてゐるからここに残る」と言うので、すぐ上の姉と2人でぶどう烟に走つてゆくと既に何人か避難してきました人達がいました。

——当時まだ5歳でした。今でも忘れられない出来事はありますか？

張本　今でもはつきり覚えているのは、人肉の焼けただれた臭い、夜中の絶叫、氣がふれているのでしようね、そして夜中に走り去る人、熱くて川に飛び込みに行くのでしょうか、皆死んだと後から聞かされました。

——一番上の姉さんはいつ戻つてきましたか？

張本　黒髪で背の高い、自慢の姉でした。勤労奉仕

で比治山に薪狩りに行つっていました。比治山は広島市を中心部にある標高70mの山ですが、私の家はその山陰にあつたので、私たちは助かつた。でも姉はそのてつへんに行つて、まともに爆弾を受けた。2日くらい経つてから赤十字の人が担架で運んできてくれた。これが私の姉か……焼けただれて見る影もなかつたです。微かに息をしている状態で、熱い、痛い痛いと言つていました。よくお袋は気がふれなかつたと思います。溺愛する我が娘に、薬も水もなす術なくじつと見守るしかなかつた。2日後に亡くなりました。その後お袋は髪の毛一本も残さなかつた。見ると思い出すからでしよう。私が小さな写真を持つていたら怒られた。以来、母に姉のことは一切聞けませんでした。

高校野球からプロへ

——その後、復興とともに広島の街でどのように過ごしましたか？

張本 中学に入ったとき、最初は水泳部に入りたかつたんですが入った中学にはなかつた。兄に相談したら2番目に好きな野球をやつたらどうか、と言う。それで野球を始めました。やつてみたら、なんとかうまくいつて投手で4番でした。高校に入つたら甲子園に行きたい、と夢に思つていました。ところが、広島の高校はどこも入れてくれない。勉強はまあまあ。最初に広島商業を受けました。予備テスト、勉強は二重丸ですよ。入れた、と思いました。それが不合格。「横暴性があつて当校に向かない」と通知に書かれていた。次は広陵です。面接で「広島商業に行きたかつたがダメだつたのでここを受けに來た」と言つたら「そんな生徒はいらん」と怒られた。「おう、上等じゃわ」と先生を蹴飛ばした。それで市内中、噂になつて他を受けられなかつた。たまたま、市内の松本商業の野球部の監督が、中学時代の自分を見ていて、兄を通じて「うちの高校に入つてくれ」と引つ張つてくれた。ただし条件があ

つた。「1学期だけは喧嘩せんでくれ」と。それで入学し、1学期は約束を守つて大人しくしていまし

た。しかし、松本商業は野球が弱く甲子園どころじやなかつた。その頃、たまたま読んだ雑誌に平安、

浪商（浪華商業＝現・大体大浪商）と常に甲子園に出る高校のことが書かれていた。すぐさま兄に「行かせててくれ」と頼んだが「何をバカなことを。今の生活もギリギリなのにどこに下宿代などの余裕があるのか」と怒られました。しかし「行かせててくれ」と懇願する自分の熱意に負けた兄が松本商業の野球部監督に相談し「化けたら凄い選手になるから、絶対行かせてやりなさい」と助言された。もう一つ「広島にこのまま置いておいたら喧嘩ばかりしてロクなものにならんから」という理由もあつたようです。タクシー運転手をしていた兄が仕送りをしてくれる

ことになり、高校1年の2学期から浪商に転校しました。卒業時にプロから声がかかり、東映フライヤーズに入団しました。

核兵器の廃絶を唱える

——野球をしていても、被爆のことは不安だったのではないか？

張本 そりや不安でした。プロ野球に入つてから1年に1回健康診断がありますから。ひよつとしたら原爆症が出るんじやないかと。昔は差別があつて、被爆したとは言えなかつたんですよ。被爆した、ケロイドがある、右手がない、など周りにはたくさんいました。それを、父兄が「ケロイドはうつるから」と。実際うつるなんて、そんなことはないんですよ。だけど、こういうことがあつたので子どもの頃から「被爆のことは言わぬ方がいいんだな」と思つていました。

——被爆者手帳（被爆者健康手帳）をお持ちです。

張本 兄はすぐにもらいましたが、私は4、5年後です。ちょっと身体の調子が悪いと、ひよつとした

ら、と思つてしまふ。未だに、この歳になつて後遺症が出る人がいます。広島に帰つて「あの人気が亡くなつた、原爆症だつた」と聞く。想像を絶しますよ、戦争は。その光景を見てきたからね。それが全体に広がつていくと、人類の破滅です。だから私達は核兵器の廃絶を唱えているんです。大国から捨ててもいいですね。オバマさんには広島、長崎に来て、原爆資料館を見てほしいです。自分に置き換えて考えてほしいです、こういう目に遭つたのが自分の愛するわが子、きょうだいだつたらどうするか？ 核兵器廃絶の運動のためなら、ニューヨークに行つても構いません。

後悔はつきない

——野球をやる上で、心の支えになつたのはどうい
う思いでしたか？

張本 親父は戦後まもなく、私が6歳になる前に亡くなりました。それからお袋が必死に働いてくれま

した。言葉もわからない、字も読めない日本の地で頑張りました。お袋の寝た姿、見たことないんですよ。自分が朝起きたら既に朝ごはんの支度ができるで、その後お袋はヤミ市に買い出しに行き、ホルモン焼きの店を夜中までやつて昼も夜も働きづめでした。兄貴だつて、タクシーの運転手を続けて、私に仕送りするために睡眠時間を削つて働いてくれた。何とか楽させてやりたい、つて思うでしよう？ 何とか楽させてあげたい、美味しいものを食べさせてあげたい、トタン屋根のバラックから助け出してあげたい、そのために野球を頑張ろう、と思いました。——大変な思いを何度もしたでしょうが、プロ野球選手として偉大な結果を残しました。「野球をできる喜び」はありましたか？

張本 それは一瞬のこと。日本一になつた、日本記録を作つた、と喜んでもそれは一瞬。翌日からまた叩き合いが始まるからホツとする暇がない。引退した時はもうバッターボックスに立たなくともいいん

だ、と思うとホッとした。でもね、引退して30年経つても後悔はあるよ。あの時、誘惑に負けて飲みに行かずにもつとバットを振つて練習していたら、もつともつといい成績を残せたのに。数字、安打、ホームラン、もつと打てたのではないか、と今も後悔しています。

隠し通した右手

——来世も野球選手がいいですか？

張本 絶対いやです。なぜなら右手が不自由だから。

5歳になる前の冬に焚き火の中に落ちてしまい、それ以来右手の指がくつついて曲がつたままで。5本の満足な指をくれるというなら、もう一度野球をやつてもいい。

——右手の大火傷のことを知らない人は、今も多いのではないでしょうか。

張本 右手のことは、隠し通しました。新人王を取つて広島に帰つて家族で食事している時に「もう少

しこの右手が良かつたらもつといい成績を残したんだが」と言つたらお袋がわあーと泣き出した。自分を責めたんだね、それで、もう一度と言つてはいけない、と思いました。外で遊んでたのは子どもだった自分だから、火傷はお袋には関係ないんですけどね。その火傷の後に、右利きだったのを左利きに変えました。松本商業の監督は右手のことは全く知らなかつたが、私の中学時代の打つ、投げる、走る、を見て、高く評価して引つ張つてくれた。そこから浪商、プロ野球へと繋がつていった。

プロの世界では、人を頼つてはいけないから誰にも言わなかつたから、誰も知らなかつた。

引退後に川上哲治さんと一緒になつ



た時に「こんな右手で頑張りました」と初めて手を見せたら「ええつ、お前、よくこの右手で」と涙ぐんでくれました。やつぱりわかつてくれる人はわかつてくれるんだ、とホッとしました。川上さんに書いてもらつた色紙の「一打一生」と「これほどの努力を人は運という」、この言葉は生涯の宝です。

平和への感謝を

——今の若い選手をどう見ますか？

張本 今の子は逆に不幸ですね。全て満たされていられるからね。目標があつて上手くなりたい、いい給料がもらいたい、という選手は努力するでしょう。スポーツ選手は、常に上へ上へ、一番を目指して行かないとダメですよ。今は、褒めてやらないと選手は動かない。指導者は常に目標を与えて口酸っぱく指導していくかないと、スポーツが成り立たなくなってしまいます。

——平和とスポーツ、若い人たちに何か伝えたいこ

とはありますか？

張本 爭い事はやめてもらいたい。「平和だからこんなにスポーツができるんだ」というありがたみを感じてほしい。スポーツ選手として備わった身体があつて才能がある人は、今の平和の中で自分の能力を發揮することに感謝の気持ちを持つてほしいと思います。

(構成＝西本祥子)

はりもと・いさお 1940年6月広島市生まれ。5歳の時に被爆。中学時代に野球を始める。地元の松本商業高校を経て大阪・浪商高校に入学し、野球を続けた。59年プロ野球・東映フライヤーズに入団。1年目から1軍の試合に出席。115安打、13本塁打を放ち新人王となる。76年に巨人に移籍し、王選手と組んだOH砲で優勝に貢献した。80年にロッテに移籍し、81年に41歳で引退。90年に野球殿堂入り。

通算3085安打。504本塁打。319盗塁。首位打者7回、最多安打3回。その他、打率2位が5回、打率3割超が16回等。MVP1回(62年)。ベストナイン16回。オールスターMVP3回等。

戦争とスポーツ年表

開戦年	終戦年	戦争名	スポーツ界の出来事
1894	1895	日清戦争	1896 第1回近代オリンピック、アテネで開催
1896	1896	イギリス・サンジバル戦争	1900 パリ～リヨン間で最初の国際自動車レース
1898	1898	米西戦争	1902 藤井実、100m10秒24の世界新記録
1899	1913	米比戦争	1903 米大リーグ第1回ワールドシリーズ
1899	1899	第2次ボーラー戦争	1904 国際サッカー連盟(FIFA)発足
1900	1901	義和団事件	1909 嘉納治五郎、日本人初のIOC委員就任
1904	1905	日露戦争	1912 ストックホルム五輪。日本が初参加
1911	1912	伊土戦争	1912 第1回東洋五輪大会、マニラで開催
1912	1913	第1次、第2次バルカン戦争	1915 第1次大戦のためベルリン五輪中止決定
1914	1918	第1次世界大戦	1920 アントワープ五輪。熊谷が日本人初メダル
1917	1922	ロシア内戦(ロシア革命)	1924 第1回冬季五輪シャモニー大会開催
1918	1919	ハンガリー・ルーマニア戦争	1926 第2回世界女子五輪で人見絹枝が優勝
1919	1922	アイルランド独立戦争	1927 ペーブ・ルースがシーズン60本塁打
1919	1921	ポーランド・ソビエト戦争	1928 アムステルダム五輪。織田幹雄が金メダル
1919	1919	アフガニスタン独立戦争	1930 第1回サッカーW杯、ウルグアイで開催
1919	1922	希土戦争(小アジア戦争)	1931 ゲーリッグら大リーグ選抜来日
1922	1923	アイルランド内戦	1934 大日本東京野球倶楽部(現・巨人)創立
1927	1949	国共内戦	1936 ベルリン五輪。聖火リレーを導入
1931	1932	満州事変	IOC総会で次の五輪開催地=東京に決定
1932	1938	チャコ戦争	1938 日中戦争拡大で東京五輪開催返上を決定
1935	1936	第2次エチオピア戦争	1939 双葉山、安藝ノ海に敗れ69連勝でストップ
1936	1939	スペイン内戦	1940 東京五輪の代替都市ヘルシンキも中止
1937	1945	日中戦争(支那事変)	1941 ジョー・ディマジオ、56試合連続安打
1938	1938	張鼓峰事件	1943 敵性語禁止で野球用語全面日本語化
1939	1939	ノモンハン事件	1944 ロンドン五輪中止
1939	1945	第2次世界大戦	1945 米大リーグ・オールスター GAME 中止

第2次世界大戦とパラリンピック
ロンドン・オリンピック／パラ
リンピックが行われた今年、パラ
リンピック発祥の地であるストー
クマンデビル病院に関する報道を
目にした方も多いだろう。
機関銃や地雷など近代戦兵器に
よる戦傷の特徴は、脊椎損傷者の
急増である。1939年に英國に
亡命し、同病院で戦傷者の治療に
あたったユダヤ人医師ルードヴィ
ッヒ・グッドマンは、脊椎損傷者
のリハビリテーションのためにス
ポーツを奨励。48年7月28日、ロ
ンドン・オリンピック開幕同日に、
アーチェリー競技会を開く。これ
がパラリンピックの始まりである。
パラリンピックの名称は、もと
もとはパラブレイジア(脊髄損傷
等による下半身麻痺者)＋オリン
ピックの造語。ある意味、戦争が
生んだスポーツなのだ。

戦争とスポーツ年表

開戦年	終戦年	戦争名		スポーツ界の出来事
1945	1949	インドネシア独立戦争	1947	ジャッキー・ロビンソン、黒人初の大リーガーに
1945	1954	第1次インドシナ戦争		古橋廣之進、400m自由形世界新記録
1946	1949	ギリシャ内戦	1948	ロンドン五輪。日本、ドイツは招待されず
1948	1949	第1次中東戦争		第1回ストークマンデビル競技会開催
1950	1953	朝鮮戦争	1951	第1回アジア大会、ニューデリーで開催
1950	1951	チベット侵攻		田中茂樹、第55回ボストンマラソン優勝
1954	1962	アルジェリア独立戦争	1952	白井義男、世界フライ級チャンピオンに
1956	1956	ハンガリー動乱		ヘルシンキ五輪。レスリング石井庄八、金
1956	1957	スエズ動乱	1954	力道山・木村政彦がシャープ兄弟と対戦
1959	1959	チベット動乱		ディマジオ、モンロー夫妻が来日
1960	1996	グアテマラ内戦	1956	メルボルン五輪。数力国がボイコット
1960	1975	ベトナム戦争	1958	ペレの活躍でブラジルがサッカーW杯優勝
1961	1961	キューバ危機	1959	天覧試合で長嶋茂雄がサヨナラ本塁打
1962	1962	中印国境戦争	1961	マン島の二輪レースで本田技研チームが優勝
1967	1967	第3次中東戦争	1962	堀江謙一、小型ヨットで単独太平洋横断
1967	1970	ピアラ戦争		村上雅則、大リーグS Fジャイアンツ入団
1968	1968	プラハの春	1964	アジア初のオリンピック、東京五輪開催
1969	1969	中ソ国境紛争	1965	ファイティング原田、2階級制覇
1969	1969	サッカー戦争		高見山大五郎、外国人初の関取に
1969	1998	北アイルランド紛争	1967	ムハマド・アリ、宗教上の信念で徴兵拒否
1970	1970	ヨルダン内戦		ザトペック、チャスラフスカ「二千語宣言」署名
1970	1993	カンボジア内戦	1968	南ア不参加でメキシコ五輪ボイコット回避
1973	1973	第4次中東戦争	1970	植村直己、世界初の5大陸最高峰登頂
1974	1974	キプロス紛争	1971	世界卓球名古屋大会でピンポン外交
1975	1990	レバノン内戦	1972	札幌冬季五輪。プロ・アマ問題に揺れる
1975	2002	アンゴラ内戦		ミュンヘン五輪。パレスチナゲリラのテロ
1977	1988	オガデン戦争	1975	沢松和子、ウィンブルドン女子ダブルス優勝
1979	1979	中越戦争		ムハマド・アリ対アントニオ猪木戦
1979	1989	コントラ戦争	1975	モントリオール五輪。アフリカ諸国ボイコット
1979	1989	ソ連のアフガン侵攻	1977	王貞治、アーロンの記録破る756本塁打

サッカー戦争

サッカーの試合が戦争の引き金を引いた。問題の対戦は1970年メキシコW杯出場を懸けた北米カリブ海予選の準決勝ラウンド。われた第1戦はボンジュラスが1－0、第2戦はエルサルバドルが3－0、ともにホームチームの勝利で迎えたブレイオフは中立国メキシコで行われ、延長の末、2－2でエルサルバドルが勝つた。その後同国は決勝でハイチを下してW杯初出場を果たしている。

当時ボンジュラスには30万人ともいわれるエルサルバドルからの移民がいて、両国の摩擦の火種になっていた。3試合を通じてサポーター同士が激しく衝突した結果、ボンジュラスサポーター2名が死亡。一方ボンジュラスではエルサルバドル移民が嫌が

開戦年	終戦年	戦争名	スポーツ界の出来事
1980	1988	イラン・イラク戦争	1980 モスクワ五輪。米国、日本などがボイコット
1982	1982	フォークランド紛争	1981 第1回トヨタカップ(現 FIFA クラブW杯)
1983	2005	第2次スー丹内戦	1983 第1回世界陸上。カール・ルイス3冠
1983	1983	グレナダ侵攻	1983 アメリカ杯 24連勝中の米が豪に敗れる
1983	2009	スリランカ内戦	1984 サラエボで社会主義国初の冬季五輪
1984	1984	中越国境紛争	1986 ロス五輪。ソ連、東独などがボイコット
1986	1987	トヨタ戦争	1986 サッカーW杯。マラドーナのアルゼンチン優勝
1988		ソマリア内戦	1988 中嶋悟、F1フル参戦。鈴鹿で日本GP開催
1988		ナゴルノ・カラバフ紛争	1987 第1回ラグビーW杯。ニュージーランド優勝
1989	2001	アフガニスタン内戦	1989 岡本綾子、全米女子プロゴルフ賞金女王
1989	1992	第1次南オセチア紛争	1988 ソウル五輪。159カ国が参加
1989	1989	パナマ侵攻	1989 JOC、日本体育協会から独立し財団法人に
1989	1989	第1次リベリア内戦	1990 マクシミルスタジアムの暴動
1990	1991	湾岸戦争	1991 第25回スーパー博覧会で開催
1990	1994	ルワンダ内戦	1991 IOCがプロ選手の五輪参加を認める
1991	2001	シエラレオネ内戦	1992 ユーゴスラビア代表、欧州選手権出場停止に
1991	2000	ユーゴスラビア紛争	1993 Jリーグ開幕／ドーハの悲劇
1994	1994	イエメン内戦	1995 野茂英雄、ロサンゼルス・ドジャースに入団
1994	1996	第1次チェツェン紛争	1995 ラグビーW杯、開催国・南アフリカが優勝
1998	1998	東ティモール紛争	1996 アトランタ五輪。爆弾テロで2名が死亡
1999	2009	第2次チェツェン紛争	1998 長野冬季五輪。日本、金メダル5個獲得
1999	2003	第2次リベリア内戦	1998 サッカーW杯フランス大会。日本代表初出場
2001		アフガニスタン紛争	2001 同時多発テロでスポーツイベント中止相次ぐ
2003		ダルフール紛争	2002 サッカーW杯を日本・韓国が共催
2003	2011	イラク戦争	2004 イチロー、大リーグ記録の262安打
2006	2006	イスラエルのガザ侵攻	2006 第1回 WBC。日本代表優勝
2006	2006	イスラエルのレバノン侵攻	2008 スピルバーグ監督、北京五輪芸術顧問を辞任
2008	2008	第2次南オセチア紛争	2008 北京五輪聖火リレー各地で妨害される
2008	2009	ガザ紛争	2009 松井秀喜(ヤンキース)、WシリーズMVP
2011		シリア内戦	2011 なでしこジャパン、女子サッカーW杯優勝

らせを受け母国に避難を余儀なくされる事態に発展。ついには両国境周辺での武力衝突に至る。

別名「100時間戦争」とも言われ、戦闘は6日間で終結したが、両国に大きな傷跡を残した。とくにホンジュラスからの移民の帰還を受け入れざるを得なくなつたエルサルバドルでは失業率が急増。左翼の暴動やゲリラ活動、それに対抗する右翼のテロが激化し、やがて内戦に突入する。中米諸国でも政情が安定し、工業化にもいち早く成功して「中米の日本」と呼ばれたエルサルバドルは現在、見る影もなく衰退している。

両国の国交が回復したのは80年10月。翌11月のスペインW杯予選で両国は12年ぶりに対戦した。そろって予選を勝ち抜き82年の本大会に出場。ホンジュラスはW杯初出場だった。

“心に残る言葉”

私は、サラエボではじめての金メダルを獲得しましたが、その思い出の地は、(ユーゴスラビア紛争により)破壊されてしまいました。私は平和のメッセージを込めて「花はどこへ行った Where Have All the Flowers Gone」を滑ったのです

カタリナ・ヴィット(東ドイツ・フィギュアスケート)

東ドイツ代表として、サラエボ五輪(1984)、カルガリー五輪(1988)で2大会連続金メダルを獲得した後、プロスケーターに転向。しかしユーゴスラビア紛争で荒廃していく思い出の地の現状を憂い、平和を訴えるためにリレハンメル五輪(1994)に出場。6位に終わったが観衆からは惜しみない拍手が送られた。

オジーが残ってくれるなら、
フォークランドはアルゼンチンにくれてやる！

トッテナム・ホットスパーのサポーター
(イングランド・サッカープレミアリーグ)

オジーとは当時トッテナムに在籍したアルゼンチン人のオズワルド・アルディレスのこと。二度のFA杯やUEFA杯を制覇したドリームチームの一員としてサポーターからオジーという愛称で親しまれていた。しかし1982年、イギリスとアルゼンチンの間にフォークランド島を巡った領土紛争が起こり、混乱を避けるためフランスのパリ・サンジェルマンにレンタル移籍を余儀なくされた。その際トッテナムのホームスタジアムであるホワイトハートレーンに掲げられた横断幕に書かれていたのがこの言葉だった。

この銀メダルがグアテマラの子供たちに勇気を与え、彼らが銃やナイフを置き、その代りにトレーニング・シューズを手に取ってくれればいい。そうなったら自分は世界一の幸せ者だ

エリック・バロンド(グアテマラ・陸上男子20km競歩)

ロンドン五輪(2012)銀メダルを獲得した。これはグアテマラが初めてオリンピックに登場したロス五輪(1932)から80年間で初めてのメダル獲得である。グアテマラは中央アメリカのメキシコの南に位置する国で、1960年～1996年まで36年間紛争状態にあった。内戦が終わってからも政情は安定せず、国民の半数以上が一日2ドルで生活する貧困国である。また治安の悪化も深刻で、毎年6000人前後が殺害されているが、その80%超が銃器によるものである。

戦争
と
スポーツ

奪われた剛腕 —沢村栄治の27年 川本凜太郎

写真提供：共同通信社

スポーツが戦争に奪われた時代があった。

日本プロ野球の創成期、グラウンドで名勝負を演じた69人の野球人たちが、太平洋戦争で若い才能を散らした。「野球がしたい」。そんな純粋な夢さえも、かなえられない時代があった。ボールやバットを銃に握り替え、彼らはどんな思いで戦地に赴いたのか。剛速球で一世を風靡（ふうび）した巨人軍のエース沢村栄治も、戦地で「栄光の右腕」をむしばまれ、わずか27歳で直球人生に幕を下ろす。

その「伝説の名投手」の足跡をたどることで、今あらためてスポーツができるこの意義が見えてくる。

日中戦争 1937年（昭12）7月、北京郊外の盧溝橋で日本と中国の軍が衝突し、戦争が始まった。31年の満州事変以後、満州（現在の中国東北区）を支配していた日本は、南京を占領して戦線は華中、華南にも広がった。中国共産党と国民政府は抗日民族統一戦線を結成して、徹底抗戦をとなえた。米国や英國は中国を援助し、日本も38年に國家総動員法を制定するなど戦時体制を強化。解決のつかないまま泥沼化し、41年に日本は米国との太平洋戦争へと突入。45年8月、広島と長崎に原爆を投下され、日本は降伏し、敗れた。



2012年11月3日、巨人が本拠地・東京ドーム

で日本ハムを破り、3年ぶりに日本一の座についた。日本シリーズは22度目の制覇。4万5018人の大観衆が歓喜に沸いた。

その歓声と悲鳴がこだまする東京ドームの外側の歩道に面した一角に、「鎮魂の碑」がひつそりと立っている。気づく人もほとんどいない。81年に建立されたその石碑には、プロ野球の礎を築いた69人の選手の名前が刻まれている。そして、その隣には、こう併記されている。

「第二次世界大戦に出陣し、プロ野球の未来に永遠の夢を託しつつ、戦塵に散華した選手諸君の靈を慰める



ため、われら有志あいはかりてこれを建つ」。

野球を愛し、プロ野球の未来に夢を抱き、グラウンドで青春を燃やし、そして、戦火に散った若き選手たち。その69人の中に「沢村栄治」の名前を見つけた。「不滅の大投手」といわれた巨人軍創生期の偉大なエース。彼はここで、東京ドームから聞こえる大歓声を、どんな思いで聞いているのだろうか。

目がくらむ剛速球

全日本チームのマウンドには17歳の沢村栄治がいた。1934年（昭9）11月20日、静岡・草薙球場。来日した米国の大リーグ選抜との第9戦に、わずか3カ月前の夏の甲子園に出場した、あどけない顔の青年が先発した。

打席には大リーグの伝説的な強打者が居並んでいた。不世出の本塁打王ベーブ・ルース、同年の三冠王ルー・ゲーリック、同じく同年の最多安打を記録したチャーリー・ゲリンジャー、前年の三冠王ジミ

一・フォックス……。まさに黄金期を迎えた大リーグの超一流ばかりだつた。第5戦から4試合で60得点を奪い、2日前の第8戦は実に21点をたたきだしていた。全日本との実力差は今で言えば、プロと高校生ほどあつた。

その大リーグ史でも傑出した強力打線を、174センチ、68キロの青年投手が、沈黙させた。左足を真つすぐのばして頭の高さまで上げる豪快なフォームから、剛速球とストンと落ちるドロップを投げ込み、大男たちのバットをクルクルと空転させた。初回1死から2番ゲリンジャー、3番ルース、4番ゲーリック、5番フォックスと4者連続三振を奪う。6回までわずか2安打に抑える快投が続いた。7回にゲーリックに外角高めのカーブを右翼席に打ち込まれたが、これが唯一の失点だつた。投球数91球。0-1で惜敗したが、当時の実力差からすると歴史的な快挙だつた。この試合が日本プロ野球、そして沢村時代の原点になつた。

沢村は1917年（大6）2月1日、三重県宇治山田市（現伊勢市）に、7人兄弟の長男として生まれた。小さい頃は虚弱体質で、走るとすぐに息を切らせた。八百屋をたたみ、製氷業を営んでいた父に背中を押され、地元の明倫尋常小学校で野球を始め

た。5年生の春に初めてマウンドに立つたが、その晩は発熱して寝込んでしまう。体力不足を痛感したこの日から彼の直球人生がスタートした。家は裕福ではなかつた。幼い兄妹たちをいづれ長男の自分が支えていかなければならぬ。友人には「将来はオレが家族を楽にするんや」と話していた。その思いを、沢村は白いボールに託した。

6年間の小学校を終えて高等科に進んだ。2年の夏、宇治山田市での大会を制して、京都で行われた全国少年野球大会に出場。2回戦で無安打に抑えながら敗退したが、その後、5年制の京都商に編入した。そこから沢村は才能を自らの努力で開花させていく。毎日300球以上を投げ込んだ。歩くときはいつも先立ちだった。握力を鍛えるため、絶えずゴムボールを握っていた。指が細くて長い、投手向きの手をしていたという。すでに球は速かつたが、京都商3年のころから右腕にさらに磨きがかかり、人間技とは思えない、剛球が繰り出されるようにな

つた。

ミットの中の骨折と脱臼

そのすさまじい威力は、当時を知る人たちの証言からも浮かび上がる。京都商のチームメートだつた金子澄雄さんは「ワンバウンドか、という低めがホップしてストライクになる。神から授かつた球だと思つた」(05年7月23日、朝日新聞)。小学校から京都商までバッテリーを組んだ山口千萬石さんは「そりや、すごかつたよ。ひざの高さの球がぎゅーんと伸びる。ドロップは肩からひざまでストーンやつた。サイン間違つたら絶対捕れへん。練習で受ける時も命がけやつた」(97年12月13日、朝日新聞)。山口さんはミットの中で指の脱臼や骨折を繰り返し、晩年まで左手の中指と人さし指が甲の側に反り返つていたという。巨人で沢村と一緒にプレーし、戦後は主軸打者として活躍した青田昇さんも、「百六十キロは出ていた。落合や清原、イチローでもバットにか

すりもしなかつただろう」と晩年に回想している（同じ朝日新聞の記事より）。

沢村は3度目の甲子園となつた34年の夏の大会で、鳥取一中に敗れて初戦敗退した。その2カ月後、日本野球を控えた全日本軍に声をかけられた。そこで歴史的快投を見せた後、慶應大進学をやめ、京都商を中退して職業野球参加を表明し、関係者を驚かせた。そして、同12月に日本で最初につくられたプロ野球チーム、大日本東京野球俱楽部（巨人軍の前身）に入団する。「早く仕事について家族を楽にしろ」という祖父の言葉が決意させたともいわれる。事実、沢村は入団後、解雇されるまでずっと三重の実家に仕送りを続けた。戦場に出征中も月給の3分の1を球団が実家に送る約束をしていた。

翌35、36年と巨人軍は2月から米国遠征に出向いた。35年は7月まで109試合、36年は5月まで75試合を消化した。通用したのは沢村だけだった。高

校中退の少年だったことから現地では「スクールボーリー・サワムラ」と呼ばれ、その快速球は本場でも注目を集めた。試合後はファンのサイン攻めにあつた。そして、35年の遠征である事件が起きた。

ミルウォーキー近郊のマディソンでの試合後、沢村はいつものようにファンの求めに応じてサインをしていた。その中にピツツバーグ・パイレーツのスカウトが忍び込んでいた。ファンに混じって、そつと入団契約書を差し出した。何も知らない沢村は、そこにサインを書いた。その後、スカウトが契約書を手に三宅大輔監督の下を訪れた。「いつサワムラを渡してくれるんだ」。大騒ぎになつた。最後は今までいうプロモーターだった鈴木惣太郎氏が、スカウトを説得して、何とか断つたという。その後、「うつかりサインはできないぞ」とチームから沢村に通告が出された。

結局、実現はしなかつたが、野茂英雄が1995年にロサンゼルス・ドジャースで13勝を挙げて新人

王と奪三振王に輝く約60年も前に、沢村が日本人大リーガーとして脚光を浴びる可能性があつた。当時、沢村はチームメートに「行つてみたいが、怖いわ」ともらしていた。そして、「こんなでつかい国と戦争やつたらあかんよなあ」と、しみじみとつぶやいていたという。

ライバルの出現

36年2月、日本職業野球連盟が発足し、大阪タイガース（阪神の前身）、名古屋、阪急など全国に7球団が誕生した。巨人軍が米国遠征から帰国後、7月から待望のプロ野球公式戦がスタートした。そこには、日米野球で名を馳せた沢村との対決に鬨志を燃やす宿命のライバルたちがいた。彼らとの名勝負が、沢村の存在をさらに際立たせ、プロ野球人気につれ車をかけた。

大阪タイガースの主軸には、その年の2月に立教大を中退して入団した景浦将がいた。松山商で投手

兼三塁手として活躍し、32年の春の甲子園で優勝し、夏も準優勝。高校時代の実績は沢村をはるかに上回っていた。プロ1年目の36年秋シーズンは投手として6勝0敗。防御率0・79の成績を残したが、最大の持ち味は怪力を生かした豪快な打撃だつた。りんごを握りつぶす握力で、1キロを超える丸太のようなバットを振り回し、ボールを150m近くも飛ばした。当時すでに「史上最强打者」と呼ばれていた。

36年12月、公式戦の勝ち点で並んだ巨人と大阪タイガースは、東京湾の埋め立て地にできた洲崎球場で初代王者を決める優勝決定戦に臨んだ。先に2勝したチームが優勝する3回戦は、後に「洲崎の決戦」と呼ばれ、今も語り継がれる名勝負となる。19歳になつていた沢村はこの年、14勝3敗、防御率1・18。9月25日に甲子園でタイガース相手にプロ野球初のノーヒットノーランを達成していた。その右腕はまさに全盛期を迎えていた。沢村より2歳上の景浦はエースで主砲だった。

第1戦。4点を追うタイガースは4回表。無死

2、3塁の好機を迎えた。打席には景浦が入った。

1—3からの5球目。真ん中に入つた沢村のドロップを強振。打球は左翼席を超えて東京湾まで飛んでいった。その後は11三振を奪つた沢村が踏みとどまり、5—3で巨人が先勝したが、景浦は本塁打と二塁打を含む3打数3安打と打ちまくつた。

第2戦は連投の沢村を攻略した阪神が、5—3で雪辱した。この2連戦が評判を呼び、第3戦は2万人の大観衆で埋まつた。巨人は前川八郎、タイガースは景浦が先発。2回に景浦のヒットからタイガースが2点を先取したが、4回に4点を奪つて逆転に成功した巨人は、5回から沢村を3連投させた。8回、1死1塁で景浦が打席に入った。最後の対決。今度は沢村が三球三振に打ち取り、巨人をプロ野球初代王者に導いた。後に「職業野球は沢村が投げ、景浦が打つて始まつた」と言われた。「伝統の一戦」といわれる巨人阪神戦の幕開けでもあつた。

絶頂期と戦争

翌37年の春のシーズンが沢村の絶頂期だつた。30試合に登板して24勝4敗。5月1日のタイガース戦で2度目のノーヒットノーランも達成した。防御率0・81の快投で196三振を奪い、巨人優勝の原動力になつた。最優秀選手賞と投手部門の5冠を独占した。当時は学生野球全盛で、野球をして給料を得るという職業野球への偏見がまだ根強かつたが、この沢村の活躍で、誕生間もないプロ野球人気が盛り上つた。未来に煌々と光が見えていた。しかし、沢村の右腕が輝きを放つたのは、このシーズンが最後だつた。偉大なエースの全盛期は、不運にも戦争という時代と重なつてしまつた。

この37年から日本列島は急速に戦時色が増していった。7月に日中戦争が勃発。その後、国民精神総動員運動がスポーツ界にも浸透してきた。プロ野球を代表するエースにも、「特別扱い」はなかつた。秋

シーズン開幕前の7月、20歳を迎えた沢村も故郷の宇治山田市で徴兵検査を受ける。結果は「甲種合格」。秋のシーズン終了後の入隊が決まつた。軍隊に入れば、数年間は野球ができなくなる。戦地に赴けば、死ぬ可能性もある。沢村のショックは大きかつた。

秋のシーズンは別人のように精彩を欠いた。成績は9勝6敗。ライバルのタイガース戦で敗戦が続いた。エースの不振が響いて、巨人はタイガースに7戦全敗し、優勝旗を奪われた。12月の年度優勝決定戦も2勝4敗で王座を明け渡した。沢村は同郷の宇治山田市出身のライバル、西村幸生に第1戦と第6戦で投げ負けた。

戦地での2年3カ月

38年1月、沢村は三重県久居町の歩兵第三十三連隊に入隊した。扱いは他の兵士と同じだつた。「貴様も軍隊では新人や」。理由もなく殴られた。一方で訓練では大投手の片鱗へんりんも見せた。手榴弾投げ競

争では軽々と80mを投げた。他の兵士は50mにも届かなかつた。しかし、150gに満たないボールの3倍以上も重い500gの手榴弾を投げ続けて、投手の命ともいえる右肩を痛めた。その後、中国に出征。軽機関銃の射手として激戦地の最前線で戦つた。大別山の戦いで左手の中指の関節を銃弾で撃ち抜かれて重傷を負つた。頑丈な体もマラリアに冒されて衰弱した。それでも右肩を下にして寝ることはなかつたという。過酷な軍隊での生活は2年3カ月にも及んだ。

40年に巨人に復帰した沢村は別人になつていた。左足は上がらず、剛速球もよみがえることはなかつた。それでも復帰4戦目の7月6日の名古屋戦で、カーブを駆使して3度目のノーヒットノーランを達成した。しかし、それが最後の輝きだつた。夏の満州リーグ遠征で再びマラリアを発病。練習中に体調を崩し、宿舎で布団を重ねて寝込むこともあつた。この年は7勝1敗。防御率も2・59に落ちた。この

頃の心境を沢村は手記につづっている。

「芝生の上に立つて白いボールを握つたときのうれしさは、死線を乗り越えてきた者にしか味わえないものである。（中略）自分はまだ昔の沢村に返つていない。だから、昔の沢村を忘れて新規巻き返しでやつてやる。」

しかし、その決意が実を結ぶことはなかつた。翌41年は9勝に終わり、エースは26勝の中尾輝二、15勝のスタルヒン（日本名・須田博）に移つていた。

焦りと失意の中、新婚5カ月の同年10月、2度目の召集令状がきた。今度は南方最前線のフィリピンのジャングルに送られた。この激戦の様子は沢村本人が月刊誌野球界の43年6月号でつづっている。米軍の包囲に遭い、絶体絶命の中、伏したまま手榴弾を投げ、前方の2本の大木の隙間を通して、敵を殲滅させたという。「2死満塁（ボールカウント）2—3という危機に立つっていた。投げられるという自信は野球の鍛錬から体得したものだ」と最後を結ん

でいる。

いかにも名投手らしい戦場の逸話である。しかし、これが真実かどうかは沢村にしか分からぬ。実は当時、戦況の悪化で、敵国の米国から導入された野球は「敵性スポーツ」と見なされ、軍部からの風当たりが強まっていた。「非常時にマリ投げをするやつらが」と冷たい視線を浴びた。40年9月にプロ野球は英語の使用が禁止され、選手は戦士とされた。43年には「セーフ」は「よし」、「アウト」は「ひけ」、「ストライク」は「よし一本」などと野球用語まで完全日本語化された。帽子も戦闘帽に変えられた。沢村は証言記事で、戦争でも野球が役立つということを訴えたかつたのではないだろうか。

二度の復員後

1年3カ月後の43年1月に復員して球界復帰した沢村は、ついに制球力も失っていた。現役最後の年となつた43年は登板4試合で0勝3敗。防御率は

10・64。「巨人軍五十史」によると「ほとんどアンダースローのように見える」投球フォームに変わっていたという。チームメートは「手が上がらない。もう投手は無理や」とささやき合つた。当時のプロ野球を実況したNHKの志村正順アナウンサーは後年、こう振り返っている。「横投げのピッチャーなんていなから、誰だろう見慣れないなあと眺めていました。それが沢村の変わり果てた姿だつた。戦争は残酷だと思つた。あれほどの投手がこうなるんだから。本当に涙が出るようでした」。

7月6日のタイガース戦で3回で5失点を喫したのが、投手として最後のマウンドだつた。現役最後の試合は10月24日の西宮球場での阪神戦。投手としてではなく、6番青田昇の代打で登場して三塁ファウルフライに倒れた。そして、再びグラウンドに立つことはなかつた。

三度目の召集

44年2月、ついに沢村は巨人から解雇通告を受けた。失意の中、兵庫県西宮市の飛行機工場で第二の人生をスタートさせた。小さな喜びもあつた。7月20日、優夫人との間に長女美緒さんが生まれた。それから約2カ月間、野球に生きた名投手は、生身の人間に戻つて幸せをかみしめた。大阪府堺市の自宅で親子水入らずの生活をすごした。だが、そんな平穏な暮らしも長くは続かなかつた。同年10月、3度目の召集令状が届く。京都府伏見の第十六師団に配属された。そこから、沢村は優夫人に1通の手紙を出している。そこにはこう記されていた。「いい父親になりたい」。しかし、戦争はそんな沢村のささやかな夢さえも、奪い去つてしまつた。

44年12月1日、15隻の船団を組んだ輸送船が門司港を出発。翌2日午前4時頃、船団は屋久島西方約150キロの台湾沖で、米国の潜水艦の攻撃を受け

た。2隻が沈没。沢村伍長を含む2100人が東シナ海に沈んだ。沢村27歳。生まれたばかりの美緒は、まだ5ヶ月だった。沢村の晩年、優夫人は一度だけ聞いたことがある。「戦争を恨まないの?」。夫は口を閉ざしたままだったという。

戦局が日本に決定的に不利となつた44年8月、プロ野球の公式戦も中断された。そして沢村が戦死する直前の11月、日本野球連盟はついに公式戦の休止を正式決定した。沢村と名勝負を繰り広げたライバルたちも、次々と戦場の最前線に駆り出された。

タイガースの景浦将は36年の沢村との洲崎球場での対戦後も主軸打者として活躍。37年には首位打者（秋）と打点王（春）を獲得し、同年と38年の連覇の原動力になった。43年の引退後、44年に2度目の召集令状が届く。45年5月20日、フィリピン・カラ

ングラン島のジヤングルでマラリアの高熱をおして、「食料調達に行く」と言い残し、行方が分からなくなつたといわれている。部隊も全滅。29歳だった。

現役時代80キロあつた体はガリガリにやせて、歯が抜け落ちていたという。

大リーガーも多くの選手が戦争に駆り出されたが、主力選手が最前線に配属されることはなかつた。

終戦2カ月後の45年10月、日本野球連盟が復活。47年、実働5年間で63勝22敗、防御率1・74の成績を残した沢村の功績を称えて「沢村賞」が制定され、巨人は沢村の「背番号14」をプロ野球史上初の永久欠番とした。同年、30勝を挙げて沢村賞の第一回受賞者となつた別所毅彦は後年、こう語つている。「プロの投手全員が喜んだ。英雄の名が戻ってきたと。あの戦争がなければ、プロ野球の歴史は変わつただでしよう。」

敵性スポーツ大流行

45年8月15日、ラジオで全国に天皇陛下の玉音放送が流れた。当時、体が小さく、「チビ」と呼ばれていた小学4年生の少年は、千葉県白井町（現佐倉

市)の実家で、家族全員で正座して放送を聞いた。父の号泣する姿に敗戦を理解した。一方で、戦争が終わつた途端に「敵性スポーツ」と言われていた野球が流行り始めた。子どもたちは焦土と化した列島で、セカンドのない三角ベースボールに夢中になつた。もう空襲を恐れることもない。チビも日が暮れるまでボールを追い掛けた。

バットは竹、グローブは布だつた。チビは母親にボールをつくつてくれと頼んだ。母は暗い電灯の下で、ビー玉に帶締めの硬いひもをグルグル巻いた。何度も指を針で刺して、畳に血が落ちた。チビは「丸くしてよ」と話しかけながら、血をタオルでふき取つた。翌日、そのボールでチビはホームランを打つた。家に走つて帰ると、母に「このボールで打つたよ」と息をはずませた。「ああ、よかつたね」とそつけない母にチビは言つた。「僕ねえ、プロ野球の選手になるんだ」。

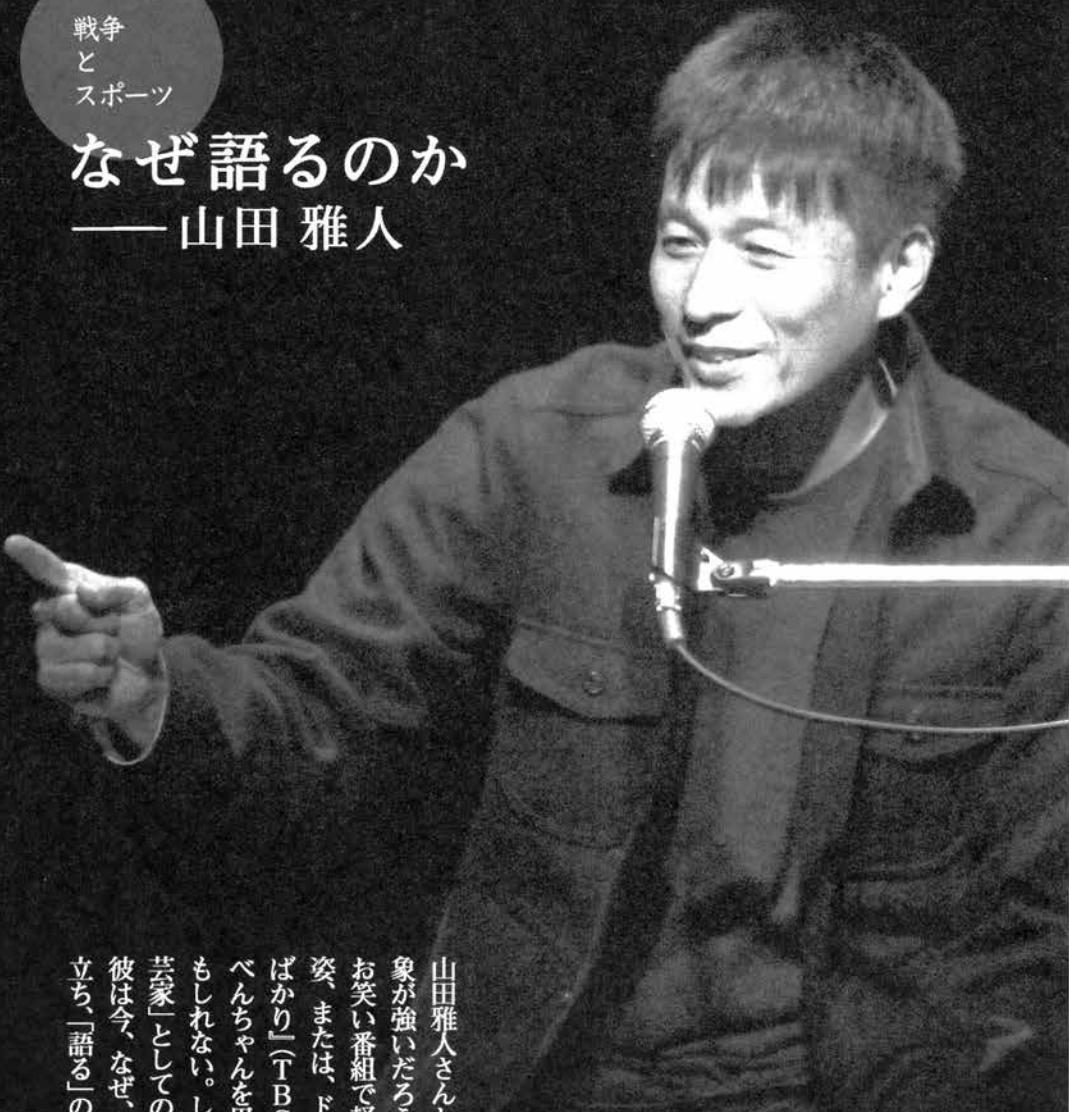
日本職業野球連盟が発足した36年2月に生まれた

チビの名は長嶋茂雄。やがて、戦後の巨人軍を代表する打者に成長。「ミスター・プロ野球」と呼ばれ、復興と平和の象徴となる日本プロ野球の、希望の光として輝きを放つ。58年(昭33)のデビューシーズンに本塁打王と打点王の二冠を獲得した長嶋は、闘志あふれるプレーと勝負強さで6度首位打者を獲得、王貞治とともに巨人9連覇の主軸打者として、国民的ヒーローになった。

74年10月14日、後楽園球場での引退試合後のスピーチ、「我が巨人軍は永久に不滅です」の言葉は今も球史に残る。しかし、実は長嶋の選手生活はこれが最後ではなかつた。シーズン終了後、大リーグのナショナルリーグ前年王者ニューヨーク・メッツを迎えての日米野球に登場した。長嶋の現役最後の試合は11月20日、静岡・草薙球場でのメッツとの最終戦だつた。くしくも40年前、あの17歳の沢村栄治が大リーガー相手に快投を演じた、同じ日、同じ球場だつた。

戦争
と
スポーツ

なぜ語るのか —山田 雅人



山田雅人さんというと、どんな印象が強いだろうか。バラエティやお笑い番組で軽妙なトークをする姿、または、ドラマ『渡る世間は鬼ばかり』(TBS系)で板前修業のベンちゃんを思い出す人も多いかもしれない。しかし数年前から「話芸家」としての活躍が目立つている。彼は今、なぜ、たった一人で舞台に立ち、「語る」のか。新境地を聞いた。

やまだ・まさと 1961年1月22日、大阪市大正区に生まれる。タレント、俳優として活躍。落語でも漫談でもない、一人芝居でもないマイク1本とスポットライト1つの話芸にめざめる。2012年8月に放送された「ナイスゲーム～言葉で伝えるスポーツ名勝負（山田雅人かたりの世界）」は、NHK総局長賞ラジオ部門特賞を受賞。

目を閉じたままで生放送

——この夏、NHKラジオで戦火に散つてゆく沢村栄治投手を題材にした『山田雅人かたりの世界』が、2012年度、NHK総局特賞を受賞なさいました。

山田 ありがとうございます。賞には縁が無くて、20年ほど前に上方お笑い大賞で「話題賞」をいただいた以来でした。嬉しかったです。NHKの中でも何百という番組がある中で選んでいただいたので、身の引き締まる思いでした。

——収録したものを聞かせていただきましたが、内容、表現ともに素晴らしい、深い感銘を受けました。何の編集もない生放送だったことも驚きました。

山田 目を閉じて沢村栄治の野球人生を語りました。ラジオでは、スタジオ内で目を閉じたまましゃべります。地震や災害などの緊急時のニュースを流すような事態のときだけ、担当ディレクターが静かにスタジオに入ってきて、私のヒザに手を置いて、知ら

てくれる約束になっています。それ以外は自分の世界にだけ没頭します。

——語りを始められたのは、なぜだつたのですか。山田 現代は正に映像社会ですよね、ゲーム、ネット、DVD、ビデオ、急激にメディアも発達して、パソコンをちょっと検索すれば何でも出てきます。便利ですね。ただこれらは震災などでパンクしたら、どうにもならなくなります。ただ「語り」なら焚き火の脇で、『あのね……』で良いんです。『あのね……こんな人がいました』何も道具はいりません。もし僕が野球が上手くて王さんや松井選手のように、颯爽とホームランを打つことができれば、もうそれで伝えられることがあると思う。極端なことを言えば、ホームランを見て自殺を思い止まる子もいると思うんです。ただ僕は野球は大好きですけど残念ながらヘタクソなので生身で語り継ごうと思いました。——伝承する根底には、どんなテーマがありますか。

山田 謂めない人生、諂めない人、絶対に絶望しな

いでほしいと思つ

てます。沢村栄治

投手も、もう自分が死ぬことが分か

つていて、2週間

後の自分のことが

分かつていても野

球をする。最後の

最後まで野球を追

いかけている。沢

村がどんな思いで戦地に行つたのかを伝えたいです。僕自身も今まで誰かに本当に大切な物を教わつてきたんです。それが書物だったのか、親戚のおじさん

だつたのか、知らないおばさんだつたのか、それらのミックスだつたのか、出所ははつきりしないけれど、伝えてもらつてきたからこそ、今があります。だから僕も伝えて行きたいんです。



音符を届ける

——ネットやテレビ、ゲームに慣れ親しんでいる子供たちに肉声は、届くのでしょうか。

山田 伝わる実感をもつています。初めは何だろう!? という不思議そうな顔もいますけれど、10分ほどたつとシーンとなつて本当に耳を傾けてくれます。語りをした後、小学生、中学生から驚くほどの手紙やアンケートの回答が来ます。勉強が好きじゃないから諦めていたけど、やっぱり看護婦さんになりたい。ムリだと思つていたけど、プロのサッカー選手になるために頑張つてみる。と自分の思いを書いてきます。

——上手くいかない学校もありますか？

山田 僕も初めは子供を誤解してたんです。聞いてくれないかもしれない……と思つてました。ある学校に行つたら、校長先生が、まず頭を下げるんです。「うちの子供は400人のうちで、200人がトイ

レに行き、1時間は戻りません。あまり気にしないでください」と、言われました。

確かにマユ毛の無い子や耳にピアスの子は多かつたけど、400人が400人、ひとりもトイレに行かずに聞いてくれました。校長先生は「学校始まって以来の様子でした」と目を丸くしてました。

——なぜ子供たちは聞いたと思いますか。

山田 気ですね。心から聞いてほしいと思って話していますから、聞いてほしいと思う音符を出しますから。

——音符!? 肉声の音程、広がり、色艶濃淡という意味ですか。

山田 はい、ただそれはテクニックではないです。セリフを言うときと同じ、すべては心から発すものです。だから語りの会で100人の観客がいれば、100人に対して、200人来てくだされば、その200人に對して出す音符は同じ色にはならないんです。

——そのためどんな工程が必要ですか。

山田 足で稼ぎます。ルポタージュを書くのと一緒にです。例えば沢村栄治についてなら、お墓参りをして、生まれた三重県伊勢に行つて、実家から小学校までを歩く。そしてお孫さんに会い、知り合いだった方々を捜して生前の話をきかせてもらう。そうやつて空気感を感じて思いをはせるうちに、ふ一つと自分の体内に言葉が降りてくる気がします。

——縁の地を歩くことで発見がありますか。

山田 沢村栄治投手は小学生の頃から普通の捕手がとれないような球を投げました。彼が安心して投げられる捕手が必要でしたが、誰も受けられず、3塁を守つっていました。そこへ山口^{せんまんじ}千万石君が転校してきます。それで沢村は投手として成長できました。沢村は27歳の若さで戦死しましたが、山口君は戦争に行かずして済んだ。沢村投手の剛球を受けることで、指があちこちに反り返って曲がり、鉄砲の引き金が引けないと判断されて、兵隊にとられなかつたからで

す。山口君はその後、高校野球で審判などもやり、野球とは縁の切れない人生で96歳まで生きました。その人、その人の生の奥行きをこちらが知ることで、知つておられるすべてを話してしまって、つまり3分の3を丸ごと全部話すのではなく、例えば父母を大きく11にして、そのうちの8を捨てて、11分の3を話すと、その捨てた部分が僕自身の自信となつて、音符にもなるんですね。

——大学を卒業後は、サラリーマン生活をしていたそうですね。

山田　2年ほど金融関係の会社員だつたこともありますたが、その間もシンガーソングライターでライブハウスに出てました。唄と語りの違いはありますが、結局は同じことをやつてるんです。

思いを託す

——舞台で話しながら、泣いてしまうこともありますか。

山田　いえ、でも一人で練習しているときは泣きながらやつています。そして時間をかけて自分が泣かないところまでもつてゆきます。僕自身が泣いてしまつたら、お客様が醒めてしまわれます。一番大切な音符を僕自身が伝えられるように言葉を内臓で溶かし、血肉として“語る”ことだと信じています。

——シンプルな物が本当は一番強いと考えますか。

山田　そうですね、野球がやりたくて、やりたくて、それでもそんな望みすらも叶わなかつた時代を生きた人を知つて欲しいです。中学生で何気なく野球をやり、部活のポジション争いに不満で、何で自分を認めてくれないんだと思つていたけど、沢村投手の話を聞いて「野球をやれるだけでも幸福なんだと分かつた」と手紙をくれた子がいました。今の時代を生きるにも、戦争中とは異なる苦しみや辛さがあるのだろうけど、振り切れてしまいそうな気持ちを薄紙一枚の所で止まつてくれた、こんな嬉しいことはありません。

(構成=長田渚左)

米国に振りあげた拳

—ムハマド・アリの闘争



川本凜太郎

戦争
と
スポーツ

たった一人で反戦に立ち上がり、
国家に拳を振りあげた男がいた。
プロボクシング世界ヘビー級王者
ムハマド・アリ（米国）。

リングの頂点に駆け上がったヒー
ローは、ベトナム戦争への徴兵を
拒否して、ボクシング界を追放さ
れる。しかし、彼は米国社会の批
判を浴びてなお、反戦と差別撤廃
を訴え続け、やがて反戦のシンボ
ルとなり、米国に勝利を収める。
ボクシング史に数々の金字塔を打
ち立てた偉大な王者は、いつしか
スポーツの枠を超えた20世紀最大
のヒーローとなる。

ムハマド・アリとはいつたい何者
であったのか。

「戦争についての答えはこうだ。俺は行かない。なぜ黒人の俺が1万6000キロも離れた土地に行つて、罪もない有色人種の頭上に爆弾を落とす必要があるんだ」

1967年、ムハマド・アリは会見でこう表明して、米国政府から届いた徴兵カードを焼き捨てた。米国は65年にベトナム戦争に本格参戦し、軍事活動を拡大していた。67年には最大50万人を超える米兵がベトナムに投入された。当時、米国では18～26歳の男子に兵役の義務があった。つまり、徴兵拒否は国家への反逆だった。そんな時代に、アリはたった一人で、米国に拳を向けた。

この時、アリは24歳。プロボクシングの世界ヘビーリー級王者だった。五輪の金メダリストから、無敗のまま世界王座まで駆け上がり、9度防衛に成功していた。「強いアメリカ」を象徴する若き国民的ヒーローだった。その言動は大衆を扇動する力を秘めていた。激怒した政府は容赦しなかつた。世界王座を

剥奪し、ライセンスも取り上げた。つまり、ボクシング界からアリを追放したのだ。

「徴兵に応じれば半年の訓練だけで除隊になるんだ。これから5年間がボクサーとして最高の時期じゃないか」。取り巻きたちは忠告した。「愛国心がない」「非国民」。バッティングも浴びた。大衆を敵に回した。孤立した。刑務所に行くか、戦争に行くのか。その選択に世間が注目した。だが、アリの信念が揺らぐことはなかつた。

「俺にはもうひとつ選択肢がある。それは正義の選択だ。米国に真の正義が浸透すれば、俺は刑務所にも戦争にも行かないだろう。そして俺は、正義を自分に実現させることに自信がある」。しかし、その後、裁判で懲役5年の実刑と1万ドル（当時換算で約360万円）の罰金刑が宣告される。

無意味な金メダル

ムハマド・アリは1942年1月17日、米国ケン

タツキ一州ルイビルの貧しい黒人街で生まれた。本名はカシアス・マーセラス・クレイ・ジュニア。12歳の時、街で自転車を盗まれた。看板描きの仕事をしていた父からの大切な誕生プレゼントだった。クレイ少年が警察に駆け込むと、大柄な警官が言つた。「取り返したければ、体を鍛えるんだな」。その警官はボクシングジムのトレーナーでもあつた。これがクレイとボクシングの出会いだつた。痩せこけてはいたが、クレイは運動神経に優れ、驚くほど敏捷だった。そして、誰よりも練習熱心だつた。国内の大會を次々と制した。60年、わずか18歳でローマ五輪代表の座をつかむと、一気にライトヘビー級の金メダリストへと駆け上がつた。

同年秋、地元ルイビルに凱旋した。街をパレードし、市長主催の祝賀会が開かれた。生まれてからずっと黒人ゆえの理不尽な差別を受けてきた。それを、この金メダルが変えてくれる。そうクレイは確信した。ある日、首から金メダルを下げて、友人と白人

専用のレストランに入つてみた。クレイの顔を見た店主が言つた。「黒人はお断りだね」。店を追い出された。さらに、居合わせた白人グループから因縁をつけられて、乱闘になつた。帰り道、クレイはオハイオ川で血のついた服と体を洗つた。そして、首から下げていた金メダルを川に投げ捨てた。これが彼の長い闘争人生の出発点になつた。

米国社会への宣戦布告

プロに転向したクレイは、差別への怒りを拳に込めて練習に没頭した。デビューから無敗の快進撃を続け、五輪の4年後、20戦目で世界王座初挑戦のチャンスをつかむ。王者は剛腕ソニー・リストン（米国）。賭け率8対1という圧倒的不利の予想を覆してKO勝ち。22歳で世界の頂点に立つた。「蝶のように舞い、蜂のように刺す」と形容された、華麗なフットワークと一瞬のカウンターは、大男たちの力ずくの殴り合ひだつたヘビー級のボクシングを根底

から変えた。米国中を驚かせた翌日、クレイはさらに衝撃的な会見を開く。急進的な黒人イスラム運動組織「ネーション・オブ・イスラム」の一員になつたことを表明。さらに「カシアス・クレイ」という本名を「白人がつけた奴隸の名前だ」として、「ムハマド・アリ」というイスラム教の名前に改名したことを見た。新しい名前は、高貴な神という意味だった。この行動は、人種差別撤廃が一向に進まない、米国社会への宣戦布告だった。

圧倒的な強さで防衛を重ねたアリは時代の寵児となる。徴兵カードが届いたのは、その絶頂期だった。「私の宗教的信仰は戦争を受け入れない。この教えは私の生まれる前からあった。徴兵を逃れるための方便ではない」。アリは徴兵拒否の理由をイスラムの聖書コーランの教えに従つたまでだと力説した。しかし、もうひとつ理由があつた。アリはこうも語っている。「白人が始めた戦争になぜ黒人が行かないといけないんだ」。政権側にいるのは白人ばかり

で、その決定にいつも黒人が従属させられる。そんな「差別社会」への反抗でもあつた。

世界王座とライセンスを剥奪されたアリは、稼いだファイトマネーのすべてをつぎ込んで、法廷闘争に踏み切つた。当初、アリの孤独な戦いは、大衆の支持を得ることはできなかつた。しかし、ベトナムの戦況が悪化し、長期化するにつれ、世論にも変化が表れた。全米各地で反戦運動が盛り上がり始めた。黒人兵士の戦死者の激増で、キング牧師ら黒人解放運動の指導者たちも反戦運動に参加。いつしかアリの戦いは「聖戦」として若者たちに支持されるようになつた。70年、ついにアリは連邦最高裁で無罪を勝ち取つた。

キンシャサの奇跡

アリは70年にリングに復帰したが、3年7カ月ものブランクの影響は大きかつた。フットワークは重く、防御勘にも狂いが生じていた。71年3月8日、

アリに代わって世界ヘビー級王座に君臨していた不敗のジョー・フレージャー（米国）に挑戦したが、15回にダウンを奪われて初めての敗北を喫する。アリの時代は終つた。誰もがそう思つた。しかし、アリの神話はまだクライマックスを迎えていなかつた。

3年後の74年10月30日、アフリカのザイール（現コンゴ民主共和国）の首都キンシャサで、世界王者ジョージ・フォアマン（米国）に挑戦する。あのフレージャーをわずか2回で粉碎した25歳の王者は、「象をも倒す」と形容された剛腕で、40戦全勝37KOと歴代のヘビー級王者で最高のKO率を誇つていた。32歳の元王者に勝ち目はないと見られていた。

予想通り、試合は初回からフォアマンがアリに襲いかかつた。ロープを背負つた元王者が必死のガードで強打に耐える展開が続く。しかし、これは実はアリの作戦だつた。フォアマンは次第にスタミナを失い、動きも緩慢になつてきた。8回2分すぎだった。ついにアリの右ストレートが火を噴いた。19

0センチのフォアマンの巨体が回転しながらキャンバスに沈んだ。7年ぶりのアリの世界王座復帰は、テレビの前で10億人が目撃した。そして、「キンシヤサの奇跡」として語りつがれることになる。

世界王者に返り咲いたアリは、その後、10度の防衛に成功する。78年2月にレオン・スピングス（米国）に敗れて王座を手放すが、同9月の再戦で奪回して、史上初めてヘビー級王座に3度就くという偉業を成し遂げる。しかし、これがボクサー、ムhammad・アリ伝説の最終章となる。

81年、アリは61戦56勝（37KO）5敗。ヘビー級王座通算19度防衛の記録を残して引退する。その3年後の84年、神経麻痺と筋肉硬直を伴う難病「パーキンソン症候群」と診断された。手足が小刻みに震え、言葉がもつれてうまく話せなくなつた。主治医は「明白なパンチ後遺症で進行性」と見解を述べた。次第に症状は重くなつた。それでも、痛々しい姿をさらしながら、アリは人々の前に立ち続けた。「私

の使命は人を愛すること、そして神の言葉を広めること」と語り、病魔に冒された第二の人生を平和活動に捧げた。

再交付された金メダル

90年の湾岸戦争ではイラクまで乗り込み、フセイン大統領と会談。世界平和を訴えて、10人の米国人捕虜解放に貢献した。そして、96年のアトランタ五輪では聖火の最終点火者を務める。すでに歩くこと

も困難だつたが、震える手で点火した瞬間、8万人の大歓声の津波が起きた。かつて米国にたつた一人で拳を振り上げた世界王者が、人種差別の最も根強かつた南部アトランタで、「平等と平和の象徴」として再び“復活”を遂げた。時代がようやくアリに追いついたのだ。そして、この大会で36年前にオハイオ川に投げ捨てたローマ五輪の金メダルが国際オリンピック委員会から再交付され、当時のクリントン大統領から授与された。

その後も平和活動は続く。01年の9・11テロの救済コンサートではイスラム教徒を代表して平和を呼びかけた。そして、70歳となつた今年、ロンドン五輪の開会式にも姿を現した。彼はこう言う。「他者に貢献すること。それはこの地球に住むための家賃みたいなものだ」。

ムハマド・アリとはいつたい何者であつたのか。

それは「自由そのもの」なのだと思う。現代社会では、どんな人も真に自由に生きることはできない。



©PHOTO KISHIMOTO

差別、戦争、そして病……。一人の人間の力ではどうしようもない巨大な壁がある。しかし、そんな社会の中で、アリはたった一人で壁に立ち向かい、突き崩し、自由を勝ち取つた。ゆえに伝説になつたのだ。

不可能とは、事実ですらなく、単なる先入観だ。
不可能とは、誰かに決めつけられることではない。
不可能とは、可能性だ。
不可能とは、通過点だ。
不可能なんて、ありえない！

(ムハマド・アリ)

20世紀という激動の時代と勇敢に殴り合い、長い戦いの果てに、アリは動作も言葉も不自由になつた。しかし、それゆえに、その姿は高貴で威厳に満ちた神のように見える。もしかすると、ムハマド・アリとは神からの人類への贈り物だったのではないか……。

最後に、私の人生の支えとなつた、アリの言葉を記して筆を置く。

不可能とは、自分の力で世界を切り開くことを放棄した臆病者の言葉だ。
不可能とは、現状に甘んじるための言い訳にすぎない。

ベトナム戦争 1960年代初頭から75年まで続いた、ベトナムの独立と統一をめぐる戦争。南ベトナムと北ベトナムが武力衝突。ソ連や中国が北ベトナムを支援したのに対し、米国は南ベトナムを支援した。社会主義の拡大を恐れた米国は65年に北ベトナムへの空爆を開始する。さらに地上軍を投入したために戦争はジャングルでのゲリラ戦へと突入し、民間人を巻き込んで泥沼化。ついに米国は反戦運動と経済的負担のため戦争を続けられなくなり、73年1月にベトナム和平協定に調印。2カ月後に軍を完全撤収した。米国の撤退でベトナムは北ベトナムによつて統一された。

『スポーツゴジラ』の

購読について

『スポーツゴジラ』が直接お申し込
みいただけるようになりました。
ご希望の号と冊数を明記し、送料
分の切手を左記にお送りください。

〒352-0011

埼玉県新座市野火止8-16-12

株式会社東美物流

『スポーツゴジラ』係

10冊まで 送料200円

20冊まで 送料350円

40冊まで 送料500円

※特集の内容はホームページに記

載しています。なお、9、12、

14号は在庫0、15、16、17号も

残りわずかとなっています。

特定非営利活動法人

スポーツネットワークジャパン

〒168-0073

杉並区下高井戸4-1-1

LM桜上水110号

【ホームページ】
<http://sportsnetworkjapan.com/>

五十嵐二葉（弁護士）／池井優（慶

應義塾大学名誉教授）／伊藤順藏

（早稲田大学名誉教授）／岡田匡令

（淑徳大学名誉教授）／長田渚左

（ノンフィクション作家）／笠原一

也（日本体育・スポーツ政策学会

会長）／佐久間昇一（㈱WOWOW

名誉顧問）／重村一（㈱ニッポン放

送会長）／豊田泰光（野球解説者）

／永井憲一（法政大学名誉教授）／

山口香（筑波大学准教授）／山口良

治（伏見工業高校ラグビー部総監

督）

三ヶ島2-579-15

早稲田大学スポーツ科学部

太田章研究室気付

【事務局】

〒359-11192 埼玉県所沢市

企画編集

スポーツネットワークジャパン

長田渚左（編集長）・川本敦太郎

菊池誠・阿部雄輔・波多野圭吾

中尾淳

印刷・製本

図書印刷株式会社

発行

スポーツネットワークジャパン

皆様、ご存じでしたか？
『スポーツゴジラ』が置かれている
都営地下鉄（大江戸線、浅草線、三
田線、新宿線）では、ラジオのAM
放送を聞くことが可能です。緊急時
の情報収集などに役立ちます。

スポーツゴジラ®

2012年11月30日発行

第1巻第20号